

(- 1)

受検 番号	
----------	--

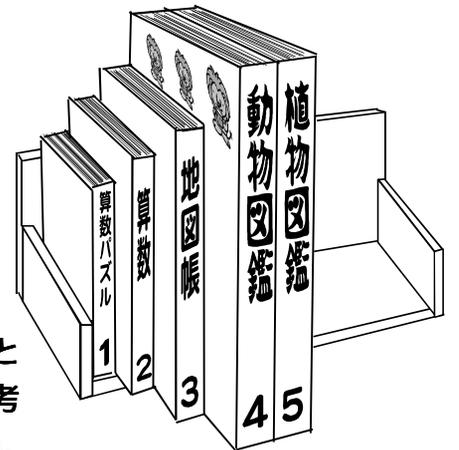
1

2

--

兄のたかしさんと妹のさとみさんは今日から冬休みです。お母さんが買い物にでかけている間に、二人は部屋にある本の片づけをすることにしました。

右の図のように、1から5までの番号がついた本が本立てにならんでいます。そのうち、4と5の本は同じ形で同じ大きさだったので、左側から見ると4さつが見え、右側から見ると1さつだけが見えました。



たかしさん ならべかえると、左側から3さつが見え、右側からは1さつだけが見えるならべ方ができるぞ。

課題1 図のように、5さつの本をきちんと本立てにならべたとき、左側から見ると3さつ、右側から見ると1さつが見えるようなならべ方を、できるだけ多く考え、そのときの本のならびを左側から順に、本の番号を使って書きましょう。右の図の場合は、1 2 3 4 5となります。

片づけも終わり、二人が本を読んでいると、右のような4コママンガを見つけました。

さとみさん ねえ、このシルバーシートってよく乗り物などで見る優先座席のことかしら。

たかしさん そうだよ。ぼくも電車の中で見たことがあるよ。ところで、このマンガからは、社会の中にあるいろいろな問題が読み取れると思うんだ。



課題2 このマンガから、あなたが読み取った社会の中にある問題を、すべて書きましょう。また、そのことについてあなたの考えをまとめて書きましょう。

あなたが読み取った問題
あなたの考え

サトウサンペイ「フジ三太郎」
(昭和52年9月14日
朝日新聞より)

受検 番号	
----------	--

二人の部屋は、エアコンを使って暖ぼうをしているのに、あまり暖かくありません。

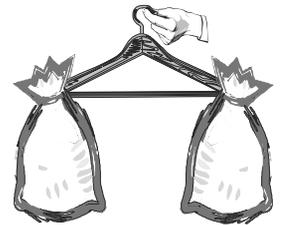


たかしさん エアコンの設定温度を上げたり、暖ぼう器具を増やしたりする以外にどうしたら暖かく過ごせるのかな。

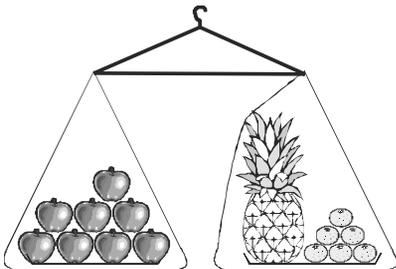
課題3 たかしさんに、この部屋で今より暖かく過ごすにはどのようなことをすればよいか教えてあげたいと思います。そのことをすると暖かく過ごせるわけも入れて2つ書きましょう。

暖かく過ごすためにすること	暖かく過ごせるわけ

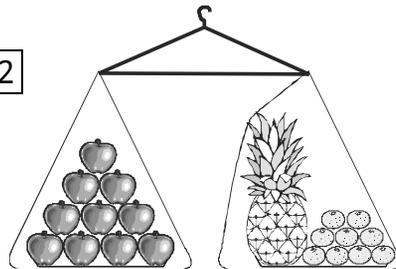
お母さんが買い物から帰ってきました。買い物ぶくろの中には、パイナップルが2個、りんごが10個、みかんが15個入っていました。たかしさんとさとみさんは、買い物ぶくろとハンガーで作ったてんびんで遊びはじめました。たかしさんは、下の図のように、くだものを何個か使って、てんびんをつり合わせることができました。



場面1



場面2



さとみさん かりに、同じ種類のくだものの重さはすべて同じと考えたら、すべての種類のくだものをできるだけ多く使って、てんびんをつり合わせるができるんじゃないかしら。



たかしさん パイナップルが2個あるから、左右に1つずつ分ければきっとできると思うけど、2個とも片方に入れてつり合わせることもできそうだね。

課題4 上の2つの場面も、同じ種類のくだものの重さはすべて同じと考えて、すべての種類のくだものをできるだけ多く使い、てんびんをつり合わせることを考えましょう。パイナップルの個数にあわせて、組み合わせを4つ考え、下の図の中にそれぞれのくだものの個数を書きましょう。

受検 番号	
----------	--

1

2

--

課題一 次の四つの課題を読み、それぞれについて書きましょう。

(一) かおるさんは何をテーマに話していたか、書きましょう。

--

(二) かおるさんは発表の中で、さらにどんなことについて調べてみたいと話していたか、書きましょう。

--

(三) まなぶさんは発表の中で、四つの食べ物や調味料をとりあげていました。「すし」「米」「パン」のほかにあと一つ何をあげていたか、書きましょう。

--

(四) まなぶさんは発表の中で、一家族あたりの米の年間消費量の全国平均は何キログラムだと話していたか、書きましょう。

--

課題二 次の二つの課題を読み、それぞれについてかきましょう。

(一) かおるさんが発表の中で、いちばん言いたかったことを簡潔にまとめましょう。

--

【適性検査】

次の会話が一回読まれるのを聞いて、検査用紙の課題に答える。

(ナレーション) かおるさんとまなぶさんのクラスで、外国の子どもたちとの交流会が行われました。そのとき、日本のことについていろいろな質問をされましたが、うまく答えられないことがあり、もつと日本について勉強しようという意見が出されました。そこで、先生から「日本の芸術や文化、社会、歴史、自然などについてそれぞれテーマを決め、調べてみましょう。」という提案がありました。

これから、かおるさんと、まなぶさんの調べ学習の中間発表のスピーチを放送します。それぞれのスピーチをメモを取りながら聞いて、あとの課題に答えましょう。

まず、かおるさんの発表です。

かおる

わたしは「茶の湯の心」をテーマに調べています。

「茶の湯」は「お茶」「茶道」「茶道」ともよばれ、外国にもいろいろかいてあります。相手に対するもてなしの心や気くばりがとても大切で、そのための細かいさほうがたくさんあります。たとえば、おじぎの仕方一つとっても種類があり、これは日本人の日常生活の中にも取り入れられています。ほかに、歩き方やすわり方、立ち方にはじまり、実際にお茶をいただくときのさほうまで数多くあるのです。これら一つ一つのさほうは、お客様に気持ちよく過ごしてもらったためのもので、つまり、日本人の相手に対する思いやりの心を表しているのです。

わたしは今まで「茶の湯」はかた苦しくて、つまらないものだという印象しかありませんでした。しかし、調べてみると、茶の湯には、心をこめて相手をもてなそうとする思いやりや気くばりの心があるのだということがわかり、とてもおくの深いものだと感じました。家では母も茶の湯を習っているのです、わたしも教わり、さらに、茶の湯の歴史についてもくわしく調べてみようと思います。

(ナレーション) 次は、まなぶさんの発表です。

まなぶ

ぼくのテーマは「地域と食べ物」です。

ぼくは先日の交流会で日本の食べ物について聞かれ、中でも特に「すし」は多くの日本人が大好きな食べ物だと説明しました。その後、いろいろ調べてみると、日本の中で、同じ食べ物でも地域によってその消費量がずいぶんちがうことがわかりました。たとえば、「すし」に欠かせない「酢」は主に西日本で好まれているようです。「酢」について本で調べてみると、都道府県ごとに比べた一家族あたりの消費量十位までは、すべて西日本の府県でした。

また、日本人の主食である「米」は、年間、一家族あたり、全国平均で九十八キログラム食べられています。一方、近畿地方では朝食などに「パン」を好む人が多く、一家族あたりの「パン」の年間消費量は、一位が京都府で四十八キログラム、二位が滋賀県で四十七・五キログラム、三位が和歌山県で四十六キログラムでした。

ぼくは、日本の中の食べ物地域差はほとんどなくなっているかと思いましたが、その消費量にはつきりと差が出るものがありました。次は、なぜこのような地域差があるのか、その理由も調べてみようと思います。